

小地域福祉活動連絡会グループワーク詳細意見

10月15日（金）

○1 グループ

- ・敬老会でのお祝い金（140名以上）を以前のように各戸個別訪問をしていたが、今回から期間を定めて集会室に自由な時間にお越し頂き、そこで表情や体調などを確認する仕組みとしました。各戸訪問では1週間以上掛かっていたのが、2日間で完了した。お越しの際は、会話を交わして安否確認も出来たので、コロナ禍が収束しても続けて行こうと思いました。長らく中止になっていた団地内の全体清掃を今月から始めた。多くの方が参加され、密にならない程度に体を動かし、時折会話をされるなど、地域の方々の顔が見える活動が少しずつ回復していくことを感じました。
- ・7月から町内会館で少人数（6～7人程度）で開催している。少人数なので、その代わり回数を多くして対応している。コロナ禍では訪問しても顔を出してくれない等、活動に支障が出ていた。今後も多人数での活動や集まりはしばらく厳しいと思う。工夫しながら少しずつやっていくしかないと思う。
- ・コロナ禍では、町会行事はすべて中止となってしまった。その代わり、各家庭を個別訪問するなどをして、今後も地域の絆を断ち切らないようにして行きたい。高齢者の方には今の心境を川柳にして応募してもらい、多数の応募があった。とても前向きな内容が多く、今後は賞状などを用意して、いくつかの優秀作品を表彰していきたい。
- ・コロナ禍で行事が潰れる中、子どもだけの花火大会を行った。高齢者にはぬり絵のコンクールを開催し、好評を博した。図書券を中学生以下の学童に配るなど、少しでも地域での活動が閉ざされないようにしている。エントランスホールに季節感をだすための飾り付けを行い、七夕飾りでは短冊を住民に書いてもらうなど、少しでも住民参加の形をとっている。今後も、クリスマスやお正月、節句などの季節ごとにイベントとして行っていきたい。
- ・コロナが落ち着いて来ているため、10月からはサロンも始める予定で、サポート隊も活動の準備をしているところである。感染者が減ってきているが、しばらく予断は許されないので、感染症対策を怠らずにできることから取り組んでいきたい。

○2 グループ

- ・活動をしないとつながりが無くなると思い、基本的に活動は継続していた。
- ・班ごとに班長が気になる人へ連絡をした。

- ・役員会を継続した。
 - ・詐欺に注意をするように伝えたり、コロナが始まったころ、日常生活の仕方を箇条書きにして、配ったりした。
 - ・マスクやポカリスエットを配布した。
 - ・不安を少なくすること、1人にならないようにすることを目的に行った。
 - ・ものをあげるとみんな喜んだ。
-
- ・マスク・お菓子・折り紙などを訪問して配布した。顔を見て「どうしてる？」と状況確認をした。
 - ・防災マップの見直しをしようということになった。
-
- ・ワクチン接種していない時は民生委員としても訪問は控えた。接種後は民生委員として訪問した。
 - ・会として、暑中見舞いを50枚手書きした。返事をくれたり、電話をくれるなど喜んでいただいた。
 - ・道で会った時に話すようにした。
 - ・民生委員や役員同士で情報交換を行った。
 - ・民生委員が2人いて、自分が住んでいるところはもう1人の方が担当で、その方が住んでいるところが自分の担当地区になっている。両者とも担当地区と住んでいるところの両方の情報を把握できるのがいいと思う。